

展示リニューアル計画について

●小田原城天守閣展示リニューアルの考え方

天守閣の現状と課題、小田原城天守閣での展示等にふさわしいと思われる内容、小田原市に現存する文化財関連施設等の現状と課題を抽出するとともに、展示リニューアルの考え方として2つの案を提示。いずれも現時点での検討であるため詳細には至っていないが、参考例として検討。

(4) 展示リニューアル計画について

【資料4-1】小田原城天守閣展示リニューアルの考え方

【資料4-2】天守閣展示リニューアル事例

●天守閣展示リニューアル事例

天守閣を展示施設として活用している事例について12城を抽出し、リニューアルの傾向、効果および展示内容の特徴・傾向を比較した。

耐震補強やバリアフリー化といった改修とともに、展示内容・方法についても近年の来館者の要求に対応する形でのリニューアル事例がみられる。

小田原城天守閣展示リニューアルの考え方

1 天守閣の現状と課題

現在の天守閣は、実物資料の展示には不向きな施設（大阪城・名古屋城・若松城等各地の天守閣も実物展示は縮小傾向）。現状において必要と思われる事項や課題を以下に列記する。

- ・ 耐震診断及び耐震補強工事
- ・ 空調・調光設備設置工事（資料の劣化防止）
- ・ 消火設備改修工事（水消火から不活性ガス消火設備へ）
- ・ 収蔵庫の設置工事（倉庫と分離）
- ・ バリアフリー化（エレベータ等の設置）
- ・ 資料搬入口の設置（国指定文化財等の展示には必須（文化庁及び各館園の基準））
- ・ 建物の構造上（天井高、柱位置）により、展示方法の制限（置きたい場所に資料が置けない）。
- ・ 展示映えのする江戸時代に関する資料が少なく展示に偏りがある

2 天守閣にふさわしい展示物とは

現在展示中の伝統工芸、宿場町、消防纏等は天守閣には不向きな展示物である。小田原城天守閣での展示等にふさわしいと思われる内容を以下に示す。

- ・ 小田原城や城下町の歴史や構造に関する展示
- ・ 石垣山一夜城と小田原合戦に関する展示
- ・ 歴代城主や小田原の合戦に関する展示
- ・ 甲冑や刀など武具や武家文化に関する展示

3 小田原市全体の現状と課題

小田原市に現存する文化財関連施設等の現状と課題は以下の通りである。

- ・ 郷土文化館の史跡外移転
- ・ 市立図書館所蔵・保管の郷土関係資料の活用
- ・ 増加しつつける埋蔵文化財資料とその活用
- ・ 市立博物館の建設に向けた取り組み（博物館構想の策定）

※市内に点在する天守閣、郷土文化館、松永記念館、尊徳記念館、図書館、文化財課収蔵庫などの歴史・文化財資料の展示・保管施設の配置計画を策定し、この計画に基づき各施設が所有する展示物の確保、天守閣の展示コーナーの大改修及び耐震補強工事を実施すべきである。

現在、小田原市立博物館基本構想（平成6年策定）の見直しを行っているが、新博物館の建設は総合計画に位置づけられておらず、用地の確保、費用・期間等から耐震改修のスケジュールとの連動は難しいものと想定される。

4 展示リニューアルの考え方

- ・ 案1…天守閣を含め市全体の施設における展示物配置計画を策定し、この計画に基づき各施設が所有する展示物の確保、天守閣の展示コーナーの大改修及び耐震補強工事を実施する。
- ・ 案2…天守閣の展示資料の中から、天守閣で展示すべき資料を選択し、天守閣の展示コーナーの大改修及び耐震補強工事を実施する。

案1（理想型）	案2（現実型）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の展示施設の配置計画を策定 ・ <u>市施設の資料の中から</u>天守閣の展示資料としてふさわしい資料を選択・確保 ・ 耐震補強工事及び展示室大改修を実施 ・ 映像や音声などによる展示スタイルを導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>現在の展示資料の中から</u>、天守閣の展示資料としてふさわしい資料を選択 ・ 耐震補強工事及び展示室大改修を実施 ・ 映像や音声などによる展示スタイルを導入

5 具体的な展示例

階	現状	改修案 A	改修案 B
付櫓	事務室・改札	事務室・改札	改札・ミュージアム・ショップ
1F	小田原城・小田原宿・伝統工芸品	小田原城・石垣山一夜城	事務室 小田原城・石垣山一夜城
2F	歴代城主・消防組纏・浅田兄弟・石垣山一夜城・他武具類	歴代城主（北条五代、大久保、稲葉）、合戦等	歴代城主（北条五代、大久保、稲葉）、合戦等
3F	武具類（刀剣・銃砲・甲冑）	武具類（刀剣・銃砲・甲冑）	武具類（刀剣・銃砲・甲冑）
中4F	特別展示室	特別展示室	特別展示室
4F	売店・休憩室	売店・休憩室	休憩室・一部展示室

*改修案 A、B とも展示ケースはエアタイト型に変更

6 改修実施後に考えられる問題

寄贈者とのトラブル防止のため、展示しない借用資料を吸収する市立博物館の設置が望ましい。

- ・ 展示方法の改修により、不要となる資料もあることから、借用資料を返却する必要がある。
- ・ 展示からはずれた資料の寄贈者、出品者などからは反発も予想される。

天守閣展示リニューアル事例

○事例選定基準

- ・ 復元天守（外観復元天守）、復興天守、模擬天守を事例対象とした。
- ・ 展示施設として機能している天守閣（展示機能を有している施設）の内、近年、展示リニューアルを図ったことのある事例として、2001年度以降にリニューアル実績を有している事例を対象とした。
- ・ 主要事例として大阪城(1997年3月リニューアル)、名古屋城(1997年7月リニューアル)を加えた。

○リニューアル（時期）の傾向

- ・ 城（天守閣）を活用した展示施設は、調査対象の12城の内、11城において天守閣築造と同時に設置されている。そのため、近年（1990年代以降）は、施設・設備の老朽化や、現在求められている機能（耐震補強、バリアフリー化等を含む）に対応することを目的に、各地でリニューアルが計画・実施される傾向にある。
- ・ 城（天守閣）を活用した施設では、上下階への昇降が高齢者や身障者にとって厳しい（困難である）ため、バリアフリーが提唱され、2000年以降エレベーターや階段昇降機の設置など、施設のバリアフリー化に取り組む施設（事例）も見られるようになってきた（多目的トイレの設置なども実施）。調査対象の内、4城において、近年バリアフリー化工事が行われた。
- ・ 一方、全国各地の城跡では、天守閣以外の施設（門や櫓など）を整備することで、城郭（城址）一体の魅力向上に取り組んでいる事例も見られる。かつては天守が存在した金沢城や駿府城（ともに現在は復元されていない）がこのような事例に該当する他、近年、本丸御殿の整備を図った熊本城やこれから本丸御殿の整備を行う名古屋城などもこうした事例に該当するものとする。
- ・ また、大垣城（RC復元天守）や大洲城（木造復元天守）など、歴史（史実）に忠実な復元整備を図り、往時の姿を甦らせるなど、歴史や城に興味を抱いている来館者や市民の期待に応える取り組みを行っている事例も見られる（本物志向への対応）。
- ・ 他方、本年3月の東日本大震災などを踏まえ、公共施設としての耐震性の検証が行われており（大阪城では、阪神・淡路大震災後の1995～1997年にかけて大規模な改修工事が実施されている）、耐震補強や耐震改修が計画されている。今後、各地に設けられている城（天守閣）を活用した展示施設では、大震災などの大規模災害を想定した防災対策を施したリニューアル（改修）事業が行われていくものと考えられるが、その際に、併せて現在の利用者（観光客）が求めている城（天守閣）施設（展示、設備、機能空間の整備）へと更新されていくものと思われる。

○リニューアルの効果（入館者増）

- ・ リスト内の「総入館者数」欄に示すように、リニューアル後、特にリニューアル該当年度もしくはリニューアル実施後一年間（リニューアル後年度）の入館者増が認められる。ただし、近年のリニューアル事例に限定したため、必ずしも全ての事例が大規模なリニューアルを行った事例ばかりではない。一般の方々やマスコミなどが認識できるような大規模なリニューアルではない場合、必ずしも大きな入館者増につながっていないことも付言しておきたい。リニューアルの効果（入館者増）は、リニューアルの度合いに応じて（施設としての変化が大きい、話題性が大きいほど）大きくなるものと考えられる。
- ・ 1997年度に展示の全面改装を行った名古屋城天守閣は、リスト記載年度以降、1999年度は943,023人、2000年度は948,218人、2001年度は1,013,042人、2009年度は1,352,344人と、その数を伸ばしている。

○展示内容の特徴・傾向

- ・ 城（天守閣）を活用した施設における展示は、ケース内で資料を公開する静的な展示が主流であった。
- ・ その土地（地域）におけるシンボル（代表的建造物）となっている城（天守閣）は、観光施設としても位置付けられている（所管が観光部局となっている等）ため、有名な城（天守閣）を有する会津若松市（鶴ヶ城）、名古屋市（名古屋城）、大阪市（大阪城）、北九州市（小倉城）などでは、展示をわかりやすく親しみやすい内容とするために、動的な展示、映像や模型を用いた展示、体験要素を盛り込んだ展示、最新のテクノロジーを駆使した展示を採用するなど、来館者のニーズを踏まえたリニューアルを図っている。
- ・ 地域を代表する施設として、その土地における観光情報を提供する傾向も認められる。近年リニューアルした仙台市博物館や、近年オープンしたもりおか歴史文化館など、最近の博物館でも観光展示（観光情報を来館者に提供するスペースを設置する等）が行われる傾向にある。
- ・ 天守閣の階層構造を踏まえて、各フロアの特徴（テーマ）を明確に設定して、様々な興味（歴史を体感したい、資料をじっくり見たい、観光施設として楽しみたいなど）を抱いて訪れる来館者に対応できる施設として整備するケースも見られる。
- ・ 岐阜城（岐阜市）では、近年の戦国武将ブームにあやかり、あらためて信長に焦点を当てたりリニューアルを計画し、「戦国を感じさせる」「天守閣望楼に上がるまでに物語性がある」をテーマに据え、具体的な展示方法を検討した。そのほか有名な戦国武将や戦国大名ゆかりの地に設置されている博物館や歴史資料館（仙台市博物館や高知県立歴史民俗資料館など）でも、有名武将や大名にテーマを絞ったリニューアルが図られている。

No	分類	施設名	文化財指定	構造	築造及び展示開設年度	リニューアル年月	延床面積(m ²)	展示面積(m ²)	総入館者数(リニューアル前年度)	総入館者数(リニューアル年度)	総入館者数(リニューアル後年度)	リニューアルの内容	
1	外観復元	大垣城	無	RC 3層4階	昭和34(1959)年4月	平成23(2011)年3月	504		44,521 (2009年度)	(2010年度)	(現在、2011年度の途中)	建築改修内容	外部改修工事 現存資料、写真を元に、1945年7月の空襲による焼失以前の状態に復元。 (4階部分の4層窓を小さくし、鉄製に変更 再建時に取り付けられた破風板の上にあった飾り金物を撤去 天守の鯨瓦を焼失以前の姿に近付け)
												展示改修内容	階層ごとにテーマを設定 1階: 関ヶ原合戦と大垣城に関する展示 2階: 武士と庶民の文化や生活に関する展示 3階: オープンスペース(休息室) 4階: 展望室
												工事期間	2009年～2011年3月
2	復興	越前大野城	無	RC 2層2階	昭和43(1968)年8月	平成22(2010)年3月	470	398	18,528 (2008年度)	23,524 (2009年度)	(2010年度)	展示改修内容	資料館機能強化(展示解説を充実)
3	復興	岐阜城 (岐阜城資料館)	史跡	RC 3層4階	昭和31(1956)年7月	平成21(2009)年7月	461 (延床面積は天守閣 ※岐阜城資料館の延床面積は113)		195,445 (2008年度)	210,939 (2009年度)	198,229 (2010年度)	展示改修内容	展示機能拡充を実施し、階層ごとにテーマを設定(新たに織田信長をメインにした展示室を設置) 1階: 武具の間 2階: 城主の間 3階: 信長公の間 4階: 望楼の間(展望室) ※市内近隣資料館(岐阜城資料館)と同時期にリニューアル改修を実施。 (岐阜城資料館は、昔の武器庫、食糧庫を隅櫓城郭造りに1975年4月に復元したもので、内部には岐阜城関係の資料等を展示。デジタルディスプレイで全国の城郭を紹介するなど、展示改修)
4	復興	岡崎城	無	RC 3層5階	昭和34(1959)年3月	平成20(2008)年3月	835	748	173,395 (2006年度)	83,686 (2007年度)	165,442 (2008年度)	建築改修内容	耐震補強工事(耐震壁設置)
												展示改修内容	耐震補強工事に伴い、展示配置変えと一部展示機能拡充を実施 1階: 事務所・券売所の配置位置変更 2～4階: 城郭のジオラマ模型を再塗装、江戸時代の城下町再現映像を映す大型モニターを新設 5階: 展望室 江戸時代初期の城絵図の複製画を床面に新設
												工事期間	閉館期間: 2007年8月～2008年3月
5	復興	諏訪高島城	無	RC 3層5階	昭和45(1970)年5月	平成19(2007)年1月	381		(2005年度) ※この頃は毎年5万人前後で推移と報告されている	51,997 (2006年度)	124,168 (2007年度)	建築改修内容	冠木橋の欄干改修工事 ※NHK大河ドラマ「風林火山」放送に合わせた観光客受け入れ事業として実施
												展示改修内容	全面改修、階層ごとにテーマを設定 1階: 本田コレクション(本田親蔵氏のコレクション) 2階: 「築城」「藩主」「藩士」「藩政」 ※NHK大河ドラマ「風林火山」放送に合わせた観光客受け入れ事業として実施
6	模擬	郡上八幡城	県史跡(市指定)	木造 4層5階	昭和8(1933)年11月	平成18(2006)年1月	309	242	69,969 (2004年度)	83,399 (2005年度)	112,631 (2006年度)	展示改修内容	歴代城主関連展示(市重要文化財「城主青山氏甲冑」)
7	模擬	富山城 (富山市郷土博物館)	無 (登録)	RC 3層4階	昭和29(1954)年11月	平成17(2005)年	947	305	9,881 (2004年度) ※2002年度の総入館者数は44,696	22,391 (2005年度)	66,691 (2006年度)	建築改修内容	耐震改修工事 バリアフリー工事(EV設置、多目的トイレ設置等) ※2階までEVアクセス可能、4階展望台までは階段
												展示改修内容	富山城の歴史(企画展示室も新たに設置)
												事業費	約11億円 展示工事費: 1億1,109万円
												工事期間	閉館期間: 2003年6月～2005年11月 (耐震改修工事は2004年度まで、2005年度は展示整備工事を実施)

8	模擬	墨俣一夜城 歴史資料館	無	RC 4層6階	平成3(1991)年4月	平成16(2004)年10月	574	323 (1階郷土 展示室: 171、2階歴 史展示室 152)	(2003年度)	20,270 (2004年度)	21,519 (2005年度)	展示改修内容	展示室拡張工事 2階:歴史展示室～豊臣秀吉に関する展示～ 3階: 〃 4階:ギャラリー 5階:展望室
9	外観 復元	鶴ヶ城 (若松城天守 閣郷土博物 館)	史跡	RC 5層5階	昭和40(1965)年9月	平成16(2004)年3月	1459 (天守閣の 延床面積。 他に、走長 屋、南走長 屋、干飯櫓 などの建物 あり)		537,522 (2002年度)	540,361 (2003年度)	608,435 (2004年度)	建築改修内容	空調設備を刷新
												展示改修内容	階層ごとにテーマを設定 地下1階:塩蔵 1階～4階:歴代藩主・江戸時代の若松 (最新のCG・音響装置を駆使した展示や体験的な要素を取り入れた展示を導入) 5階:展望台
												事業費	約1億円
												工事期間	閉館期間:2003年12月～2004年3月
10	復興	小倉城	無	RC 4層5階	平成2(1990)年7月 築造:昭和34(1959)年	平成14(2002)年3月	1,840	113,451 (2000年度)	98,106 (2001年度)	108,941 (2002年度) 116,184 (2009年)	建築改修内容	バリアフリー工事(椅子式階段昇降機を設置)	
											展示改修内容	からくりシアターの映像機器更新および映像ソフト1本追加	
											事業費	約4,900万円 バリアフリー工事費:約2,300万円 展示工事:約2,600万円	
											工事期間	閉館期間:2002年2月(約1ヶ月間)	
11	外観 復元	名古屋城	特史	RC 5層6階	昭和34(1959)年10月	平成9(1997)年7月	5422 (延床面積 は大天守 閣。小天守 閣の延床 面積は 1,345)	4,297	1,023,254 (1996年度)	941,056 (1997年度)	909,260 (1998年度) 1,352,344 (2009年度)	建築改修内容	バリアフリー工事(外部EV設置)
												展示改修内容	展示室全面改装工事 展示室テーマ「子供から大人まで、古き良き名古屋を楽しく学べる」 3階:特殊な床材で、砂地の道路の感触を表現。城下町の街並み。 4階:焼失した本丸御殿をコンピューターグラフィックス映像で復元、展示 5階:城関連歴史年表や、石垣に使われる石を縄で引っ張る「石引き体験コーナー」 などを設置。 6階:展望台 ※築造当時内部EV設置
												事業費	展示工事費:約3億8,000万円
												工事期間	1996年6月～1997年7月
12	復興	大阪城	特史	RC 5層8階	昭和6(1931)年11月 築造:昭和4(1929)年	平成9(1997)年3月	5,072	1,887	(1995年度)	閉館期間 (1996年度)	1,534,140 (1997年度) 1,247,661 (2009年)	建築改修内容	外部改修工事、耐震工事、バリアフリー工事(外部EV設置)
												展示改修内容	映像やミニチュア模型を駆使し、現代的な展示へ刷新 1階:シアタールームを設置 2階:城に関する展示新設(パネルや鯨や鬼瓦のレプリカ展示) 3階:豊臣秀吉関連展示(黄金の茶室原寸大復元、秀吉時代と家康時代の大阪城本丸復元模型比較) 4階:歴史展示室 5階:大坂夏の陣図屏風の世界(ミニチュア模型と大型映像) 6階:回廊 7階:豊臣秀吉の一生(トリックビジョン:模型と映像を組み合わせた装置) ※各階下り階段前には、大阪城の歴史を映像と模型で紹介する「早わかり大阪城史」 コーナーを設置 ※築造当時内部EV設置
												事業費	約70億円 展示工事費:約5億7,000万円
											工事期間	閉館期間:1995年12月～1997年3月	